

# 会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和 2 年 8 月 2 8 日 (金) 13 : 25 ~ 15 : 20
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	ぎふメディアコスモス みんなのホール 研修名：市町村議会議員セミナー ～自治体の防災マネジメントと災害時の議会・議員活動～ 主催：公益財団法人岐阜県市町村振興協会市町村研修センター
3 参 加 者	寺島 芳枝 渡部 昇 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	自治体の防災マネジメントと災害時の議会・議員活動
5 主な内容	①自治体の防災マネジメント ②災害時の議会・議員活動 講師：鍵屋一氏
6 所感、提言事項、課 題等	<p>【議員氏名】寺島芳枝</p> <p>講師の前職である板橋区福祉部長、危機管理担当部長、議会事務局長の経験も踏まえたセミナーでとてもリアルで納得と課題へのヒントが沢山あり、誰一人死なせないとの熱い思いが伝わってくる清々しい時間を、多くの参加議員の皆さんとも共有することができた。</p> <p>① 自治体の防災マネジメント 命を守る防災のコツ⇒早く逃げる・・多治見市で行っているコミュニティタイムラインは時に叶った取り組みである、多くの地域での実施をと改めて思う。今ある地域の伝統行事や地域性を活かした要配慮者への支援や福祉施設等との連携をした個別計画の作成など、兵庫県の取り組みも参考にしていきたい。</p> <p>② 災害時の議会・議員活動 災害対策本部が応急対策を実施中は議会活動を休止する。執行機関が議会資料を作成し説明が物理的に可能になる時期以降に再開など平常時と異なり、心をあわせて同じ方向性で応急対策期を乗り越えるなど参考に今あるものに盛り込むことを検討したい。</p>

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>【議員氏名】 渡部 昇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍での新しい「避難」生活様式は少人数・分散避難       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家は大丈夫、火災もない→在宅避難</li> <li>2. 家が壊れた、周囲に火災発生→ホテル、旅館、親族、避難所</li> </ol> </li> <li>・ 進み続ける高齢化、高齢単身世帯、東日本大震災で誰が逃げろと伝えたか？第一位→家族、同居者・第2位→近所、友人・第3位→福祉関係者、地域での防災活動が重要である。</li> <li>・ 大地震の発生確率(30年)→南海トラフ地震(M8級)70～80%、首都直下地震(M7級)70%である。なぜ、人は備えないのか？なぜ企業、行政の災害対策の優先順位は低いのか？「自分は大丈夫！」自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性。</li> <li>・ これからの防災は損失を減らす防災から、安全安心の防災へ日常から人間関係、近所関係を良好にし、誰一人、取り残さない、魅力ある地域をつくる事が災害の危機にも強くなる。</li> <li>・ 命を守る防災のコツは→早く逃げる。</li> </ul> <p>【議員氏名】 片山竜美</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化が進み、自治体職員、消防団員が減少している現在、公助にも限界がきている。この現状の中、地域防災いわゆる「近助」の役割が重要となり、「地区防災計画」が不可欠である。その計画を立てるためにも、地域での防災リーダーを育成することが急務であると思った。</li> <li>・ 「自分は大丈夫」という正常化の偏見を行政も議員も市民も打ち破ることで、危機を予測、予防し、対応する力が生まれる。危機管理意識を平時から高め、常任委員会などで防災の質疑を積極的に行っていきたい。</li> <li>・ 福祉避難所の整備が大切である。福祉避難所の避難マニュアルの作成や訓練の実施、人材育成など積極的に行い、災害関連死を少しでも防ぐことができる街づくりを目指して取り組んでいきたい。</li> </ul>
<p>7 写真等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。